

## 令和6年度第1回秦野市社会教育委員会 会議録(要点筆記)

1 日 時 令和6年7月2日(火) 午前10時3分から正午まで

2 場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室

3 出席者

(1) 社会教育委員

小寫恵、小澤直彦、竹内房枝、小泉道生、高橋弘子、

朝倉徹、端山清、熊澤広明、渡邊哲幹、吉原揚子

欠席：鎌田初子、橋爪梨絵、小泉康男 (全13名中10名出席)

(2) 市

宇佐美文化スポーツ部長、水島生涯学習課長、山本図書館長、

長島こども育成課長、三川教育総務課長

[事務局]堀野生涯学習担当課長代理、金口生涯学習担当主査

4 会議の概要

(1) 開会

ア 会議成立報告

事務局より、鎌田委員、橋爪委員、小泉康男委員の欠席を報告。社会教育委員13名中10名が出席しており、秦野市社会教育委員会規則第4条の規定(半数以上の出席)により会議が成立した旨を報告。

イ 傍聴者報告

事務局より、傍聴者の申し出がない旨を報告。

ウ 非公開案件の承認

次第のうち5の(9)「『みんなで考えるみらいの学校整備指針案』の骨子について」は未成熟案件のため、非公開案件とすることを事務局が諮り、承認された。

(2) 委嘱状交付

中学校長会から選出の加藤淳也委員、秦野市PTA連絡協議会から選出の神山友輔委員及び秦野市スポーツ協会から選出の天津徹委員が団体の職を退かれ、社会教育委員を退任されたことに伴い、それぞれ、小澤直彦委員、橋爪梨絵委員及び小泉康男委員が就任したことを事務局より報告。

出席の新任委員について、教育委員会からの委嘱状を机上交付。

(3) 文化スポーツ部長あいさつ

教育長は本日他の公務のため急遽欠席となり、宇佐美文化スポーツ部長

が代理であいさつを述べた。

本年度から就任いただいた3名の委員を含め昨年度から引き続き委員を務めていただいている委員の皆様においても本年度もよろしくお願いいたします。

秦野市総合計画は令和7年度をもって計画期間終了となり、個別計画も改定していく。生涯学習推進計画や図書館基本計画を改定していくので、社会教育委員会会議においても例年とは違うかたちでお力添えいただきたい。

本日は、5つの議題、9つの情報提供がある。また、前回会議で皆様に御意見をいただいた今後の協議テーマについても、議長と調整した中で、提案させていただく。本日の会議がより良いものとなるよう祈念し、あいさつとさせていただきます。

#### (4) 各委員・事務局職員の紹介

出席の新任委員、新任市側職員が自己紹介を行った（所属と氏名）。

中学校長会 小澤直彦委員（東中学校）

教育総務課 三川辰徳課長

#### (5) 朝倉議長あいさつ

本年度も秦野市社会教育委員会会議の議長を務めさせていただく。皆様よろしくお願ひしたい。

《新任委員もおり、第1回目の会議であることから、朝倉議長から「社会教育委員活動のためのハンドブック—2022年版—」をもとに、「社会教育」及び「社会教育委員の役割」について説明。》

#### (6) 会議録署名人の指名

議長のほか、議長が指名する1名の委員を会議録署名人とする。

今回の会議について、小澤委員が指名された。

#### (7) 議題

**資料1により、事務局から議題(1)を説明。**

##### ア 議題(1) 社会教育委員が関わる附属機関等の委員の選出について

(事務局)

一部の会議は会議前に選出する必要があったため、事前に議長に相談のうえ、選出委員に内諾をいただき、選出したことを報告。

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| (ア) 親子川柳大会実行委員(2名)  | 吉原委員、小泉道生委員 |
| (イ) 公民館点検・評価委員(2名)  | 端山委員、竹内副議長  |
| (ウ) 教育行政点検・評価委員(2名) | 高橋委員、熊澤委員   |
| (エ) 図書館協議会委員        | 渡邊委員        |

- |                    |      |
|--------------------|------|
| (オ) ほうらい会館運営審議会委員  | 端山委員 |
| (カ) 社会を明るくする運動推進委員 | 朝倉議長 |
| (キ) 秦野市表彰者審査委員会委員  | 朝倉議長 |
| (ク) 市民の日運営委員       | 朝倉議長 |

《朝倉議長》

事後報告となり申し訳ないが、選出委員の皆様にはよろしくお願ひしたい。

**資料 2 により、教育総務課長から議題(2)を説明。**

#### イ 議題(2) 令和6年度教育委員会教育行政点検・評価について

[質疑応答・意見等]

《朝倉議長》

点検・評価はなかなか大変だが、市民のためになるのでよろしくお願ひしたい。

質問等なければ承認としてよろしいか。

<委員>

了承

**資料 3 により、生涯学習課長から議題(3)を説明。**

#### ウ 議題(3) 令和6年度公民館運営・事業に係る点検・評価について

[質疑応答・意見等]

《朝倉議長》

質問等なければ承認としてよろしいか。

<委員>

了承

**資料 4 により、生涯学習課長から議題(4)を説明。**

#### エ 議題(4) 第5次「秦野市生涯学習推進計画」の策定について

[質疑応答・意見等]

《朝倉議長》

所掌事務及び専門部会委員の指名を含め、質問等なければ承認としてよろしいか。

<委員>

了承

資料 5 により、図書館長から議題(5)を説明。

オ 議題(5) 「第2期秦野市立図書館基本計画(秦野よむよむプラン2026)」の策定について

[質疑応答・意見等]

≪朝倉議長≫

質問等なければ承認としてよろしいか。

<委員>

了承

#### (8) 情報提供・参考資料

≪朝倉議長≫

昨年度から引き続き、情報提供及び参考資料については、担当課から説明を要する案件のみ説明する。なお、質疑応答においては、全ての資料に対し質問を受け付けることとする。

資料 6、8 及び 9 により、生涯学習課長から情報提供・参考資料(1)、(3)及び(4)を説明。

ア (1) 広域連携中学生交流洋上体験研修事業について

⇒担当課から説明

イ (2) 令和6年度はだの生涯学習講座について

ウ (3) 第15回秦野市親子川柳大会の作品募集について

⇒担当課から説明

エ (4) 公民館における夏休み期間の学習室開放について

⇒担当課から説明

オ (5) 令和6年度はだの歴史博物館夏休みイベントについて

カ (6) 企画展「怪異と妖怪の世界」について

キ (7) 第37回夕暮祭短歌大会表彰式について

ク (8) 第38回夕暮記念こども短歌大会の作品募集について

## [質疑応答・意見等]

< 端山委員 >

私も洋上体験研修で船に乗ったことがあるが、今、船酔い対策はどうしているのか。

(生涯学習課長)

保健師が2名乗船する。ベッドがある部屋を保健室として確保し、船酔いの薬や水分補給できる飲み物などを保健師の指導に基づいて準備しており、その部屋で休んでもらえるようにしている。また、乗船までの行程では、富士川SAでの休憩の際、酔い止めを飲むよう周知し、船に乗る頃に効き目が出るようにしている。昨年はかなりうねりがあったので、船酔いで気持ち悪いという子もいたが、平気な子もいた。

< 端山委員 >

水圧実験など普通はできないので、学校の先生にも子どもたちと共通の体験をしていただくのは良いのではと思うがどうか。

(生涯学習課長)

船でないと体験できないことがあるが、資料に記載した状況もあり、指導担当を依頼する際参考とさせていただく。

《朝倉議長》

自分も経験したことがあるが、船酔いすることも経験だと思う。主要5教科(英国数理社)の勉強ももちろん大切だが、それ以外の経験が少なくなっている。資料に記載されたことはそのとおりだろうと思うし、先生方は本当に大変だろうと思うが、良い企画だと思う。

< 渡邊委員 >

以前は、青少年指導員が携わっていたと記載があるが、学校の先生に変わったのはどういう経緯なのか。

(生涯学習課長)

以前は、現在のこども育成課が所管して実施しており、青少年指導員や大学生のボランティアにお願いしていたと聞いている。生涯学習課へ移管されるとき、同じ教育部で、教員の研修の一環として、お願いすることになったと聞いている。

< 竹内委員 >

私たちが子どもたちとキャンプするのと同様、3日間、知らない人た

ちと接する体験ができ、子どもたちの成長が楽しみである。普段、なかなか新しい世界に飛び出していく勇気がないのが今の児童、生徒に見られる雰囲気だと感じているが、自分から飛び出していこうという意欲と3日間の経験には成長が期待できると感じる。

<渡邊委員>

来週、私は姉妹都市青少年交流キャンプで諏訪市に行ってくるが、洋上体験研修も同様に貴重な体験ができる事業だと思う。

《朝倉議長》

デジタル社会なので余計に体験が貴重になってくる。

<端山委員>

参加した子どもが成人された親御さんにたまたまお会いし、「うちの息子がとても喜んでいて。あの経験がものすごく生きています」という話をされたことがある。

資料に記載されている露天風呂などは新島に入れないと行けないが、港が外向きなので、海洋状況によって、ちょっと波があると接岸できない。沖縄に台風があってもスローピッチの波が来て新島に入れない。花火大会があって、海上で見られるかなと思ったら、波が高くなったために船長から帰ろうという判断があったこともある。そういう自然の厳しさも体験できる。楽しみを奪われたりすることもあるが、後になって思うと、できなかったことがあるから、じゃあ新島に行ってみようかとか、大島に行ってみようかとか思う。とても良い経験になる。

青少年指導員の件は、秦野市単独で実施していたら研修生が集まらなくなってきたので広域連携に舵を切り、青少年健全育成の担当ではなく生涯学習の担当へと移ったのではないかと思うが、長くやっている事業であるし、船を活用させていただくのが良いと思う。

《朝倉議長》

おっしゃるとおりだと思う。

今の話に加えて、資料9の公民館における夏休み期間の学習室開放について、私のほうで学生たちを集めさせてもらって、幸い3人ほど応募があった。夏休みの子どもの体験を充実させる意味でも、来年以降も育ててほしい事業だと思っている。そのための一つの提案だが、今回ボランティア募集の締め切りが6月中であったが、7月までにすると良いかもしれない。今どきは、仕送りが少ない学生や、学費を自分のア

アルバイト代で賄っている学生がそれなりにいて、アルバイトのシフトを入れるときに8月の都合は6月中には見えてこない。もちろん大丈夫だという学生もいるが、一人でも多くの学生にフォローしてもらおうということであれば、7月まで募集期間としたほうがエントリーする学生は増えると思う。

<端山委員>

公民館の利用者にお年寄りが多い中、子どもが来るということ自体があまりないと思う。小学校が隣接するところは公民館の図書室を使うとかあるかもしれないが、それ以外で使うことは少ないのではと思う。公民館を地域の社会教育施設として活用する経験をしてもらうにはすごく良い企画ではないかと思う。

大根公民館は東海大学に深く関わっていただいて活動してきたと思うが、最近はどうか。

《朝倉議長》

大根のほか、西の地区でもお手伝いさせていただいていると聞いている。

<端山委員>

地域の大学と連携できている良い例だと思う。もっと宣伝し、大学と連携して公民館が活動していることが知られるようにしてもよいと思う。

<熊澤委員>

学習支援ボランティアというのは、交通費やお弁当代は出るのか。

(生涯学習課長)

交通費程度だが予算が取れたので、今年度初めて大学生ボランティアの謝礼を支給させていただく。ボランティアには午前中のみ対応いただく予定である。

<熊澤委員>

せっかく夏休みに出てきてくれるので、無償ではなく、交通費はもちろんのこと、ある程度有償で考えていかないといけないのではないかと積極的に計画してほしい。

<高橋委員>

ところで、学童保育については、小学5～6年生は見てもらえないのではなかったか。

(こども育成課長)

秦野市の学童保育は児童ホームと呼んでいるが、今年4月から、従来小学4年生までだったのを6年生まで拡大した。

<高橋委員>

前から申し上げていたが、拡大していただき良かった。児童ホーム利用の子どもたちのことも思うと、この取組みは本当に素晴らしいと思う。その子どもたちにとっても夏休みの学習ボランティアでお兄さんお姉さんが来てくれるというのは良いことだと思う。利用率がまだ低いということだが、もっともっと宣伝できるのではと思う。

それから、年の近いお兄さんお姉さんから教わるのは良いと思う。気軽にいろんなことが話せる。家庭教育から、ある程度の時間、こぼれてしまうような子どもたちにとっても、東海大学の学生さんの協力のもとで、気持ちを楽にして話ができたり、教えてもらったり、遊んでもらったりするような交流の時間が与えてあげられると素晴らしいと思う。うまく宣伝をしていただきたい。

<渡邊委員>

学習室開放を行う公民館の一覧に本町公民館が入っていない。いつも思うが、本町地区の公民館ではないような気がしている。本町公民館は市全体の公民館のようで、本町地区の人が使いづらいと感じていると思う。子どもたちも本町公民館にはあまり行かないで、近くにこども館があるので結構そちらに集まって遊んだり勉強したりしている。どうかならないものか。

(生涯学習課長)

本町公民館はイオンの横にあり利便性も良いので、本町地区の公民館というよりは市全体の公民館という感じで様々な方が使われている。利用率も非常に高い。公民館を一つ建設するとなると運用も含めて経費が掛かるし、人口のバランスも考えなければならないので、御意見は理解できるが、現状としてはこうしますということは申し上げにくい。

子どもたちについては、委員からも紹介いただいたが、こども館を利用している子が多いと聞いている。

昨日から、文化会館が工事のため当面の間休館となり、期間限定ではあるが、市内の公民館へ利用者が移ってくると思うことから、本町公民館については難しい状況だと認識している。

### <高橋委員>

堀川公民館は子どもが遊べる場所があり、普段から子どもが出入りし、そこから図書室に行ったり、また戻ってきたりして、楽しそうにしている。ほかの公民館はどうか。

また、夏休み期間以外にも学習室開放のような企画があると良いと思う。

#### (生涯学習課長)

鶴巻公民館には児童館機能がある。また、北公民館にも玄関を入れてすぐ子どもが遊べる場所がある。スペースがある館についてはこうした場所の確保を進めている。

学習室開放は資料に記載した目的により、また、夏休み限定で進めており、教育委員会として寺子屋事業をやっていると聞いており、御意見は検討課題として承りたい。

#### 《朝倉議長》

皆さんから夏休み期間の学習室開放について活発に御議論いただきましたが、ぜひ今後もこの事業を拡充していただけると良いと思う。

大学の様子を紹介すると、7月の最終週くらいに定期試験があり、学生たちの予定が空くのはそれ以降、今年で言えば7月30日以降になる。いろいろなお手伝いをさせていただくのもその後が良い。8月初頭から9月中旬まで休みになる。

擦れていないのかハートの良い子が多く、ボランティアに応募してくれる。アルバイトをすれば1時間いくらかもらえるけれど、ボランティアをやってみたい、お手伝いしてみたいと言ってくれる。学生たちの希望でもあるので、お互いWIN-WINでやっていけると思う。相談いただければ大学の事情も伝えることができるので、引き続きお願いしたい。

### <竹内委員>

子ども会で小学6年生向けに1泊2日のリーダーキャンプをしている。中学生にボランティアとしてジュニアリーダーをしてもらう構成としているが、なかなか集まらない。大学生が関心を持って参加してもらえるならと思うが依頼できるか。

#### 《朝倉議長》

中には関心を持つ学生もいるかもしれない。

<竹内委員>

トップを務めていた子は短大生だったが、今年就職して活動できなくなった。今のトップは高校1年生くらいなので、もうちょっと上の年齢の子が小学生に関わってくれれば大変ありがたいと思う。

**資料 15 により、事務局から今後の協議テーマについて説明。**

(10) 今後の協議テーマについて

令和5年度社会教育委員会議において、委員同士がテーマを設けて協議し、提案や報告をしていくことを決定した。同年度第3回の会議で委員から挙げられた意見を基に、議長と事務局が調整し、事務局からテーマ案を提示。

《朝倉議長》

前回会議でも、学校教育を支える社会教育ということが議論で出てきた。委員の関心についても一番多かったのが子どもとの関わりだったので、子どもと携わりながら社会教育を豊かにすること、というのを案として考えたが、率直な意見をいただきたい。

たった今も、夏休みの子どもたちをどうやって楽しませようということに私たちは随分時間を割いてきたので、このテーマはぴったりかと思う。

<端山委員>

「子ども」という視点で行くのか。

《朝倉議長》

そのとおり。

<端山委員>

先ほどジュニアリーダーの話があったが、団体が単独で活動するのが厳しくなっている。ジュニアリーダーのなり手が少ないのは秦野市に限ったことではなく、どこも風前の灯といった状況で、ジュニアではなくシニアにするかという議論に変わってきている。実際にジュニアリーダーを運営するのに、トップの子どもはいても、その子を支える大人がいなくなっているというのも理由の一つと思っている。相手が来ない、指導者もいないのでは消えていくしかない状況かと思っている。子どもに向けた活動をするとき、各々が単体で話を進めるのは難しく、子ども会育成連絡協議会や青少年指導員という存在があ

るが、連携する仕組みを社会教育委員会議で議論できないかと思う。

#### <渡邊委員>

子どもの数が減って子ども会が活動しづらくなっているが、青少年指導員も高齢化が進み、定員に満たない。実質の人数が少ない。地区によってばらつきはあるが、バランスが取れない。竹内委員とも連携して活動しているが、なかなか難しくなっている。

#### <竹内委員>

青少年指導員も忙しく、連携が難しくなっている。以前よりも青少年指導員のグループと子ども会のグループが疎遠になっている。

地区によって子ども会育成連絡協議会が存在しなくなったところもある。西・上地区及び北地区は、地区の子ども会育成連絡協議会に属する子ども会がそうだが、この2地区は秦野市子ども会育成連絡協議会から抜けてしまった。

南地区では青少年指導員を取り込み、南公民館、南が丘公民館のそれぞれのエリアで一つずつ子ども会を作って活動している。とても良い関係を築いている。

反面、従来、子ども会は自治会単位で組織されてきたが、南地区は自治会が運営する子ども会が全くない。保護者の方が子ども会の役員となって運営していくことが難しくなっているようなので、もっと自治会の中で子ども会を運営していく構成にできたら、子どもが活躍できる子ども会ができるのではと考えているが、誰からもうちの自治会でやるという声はいただけていない。子どものためのお祭りを行ったりはしてくれるが、どうして自治会で子ども会を運営してもらえないのだろうかと思う。

また、どうして秦野市子ども会育成連絡協議会に入らないのだろうかという疑問を抱いている。

秦野市全体が子どもに上手に関わる方法を考えていけたらと思う。

#### <端山委員>

青少年指導員がそんなに厳しい状況とは思っていなかった。今お話があった子ども会のほか、任意加入で難しそうなのがPTAだと思う。青少年指導員、自治会、子ども会、PTAの四つが一つにまとまるような仕組みを、全市的には無理でもモデル地区のようなかたちで、考えるのかなと思う。

#### <渡邊委員>

学校と地域が一緒になって行う学校運営協議会は、学校運営に関して地域の意見を取り入れるものだと思う。子どもを育む会というものもある。本町地区は、年2回会議をして、主にあいさつ運動をしているが、これをもっと発展させていけば、もっと地域と学校が協力しているような行事をやっていけると思う。このような地区の活動はほかにあるのか。

#### <小澤委員>

学校運営協議会は中学校区のところと単独のところがある。中学校区ごとに組織された子どもを育む会のほうが秦野での歴史は長い、学校運営協議会ができて、二つをどういうふうにやっていくかということが考えられていて、秦野としては、実際に活動していく部隊として子どもを育む会を考えていたらどうかという話が出ているのが現状だと思う。東地区では、学校運営協議会と子どもを育む会には同じような場面にいていただいて、実際に地域に根差している子どもを育む会の方から「こういう活動をするとうまい」というふうに手を挙げていただけると良いのかなと思っている。今年、初めて、朝のあいさつ運動を自治連でやっていただいた状況である。

#### <竹内委員>

南地区では、南中学校区の子どもを育む会と南が丘中学校区の学校運営協議会で動いていると思うが、組織の成り立ちから違うと感じていた。私は両方の会合に出ているが、南中学校区のほうはこれからもう少しコミュニティスクール化していこうという感じで、南が丘中学校区のほうはすでに高校や大学も含めて組織している。

南が丘中学校区では自治会長、青少年指導員や民生委員が参加し、メンバーを変えて2部制で会議を行っている。2部のほうでコミュニティスクールの会議を行っている。地域の人たちに学校の実情を聞いて動いてもらっている。学校から実情を話していただいたり、地域から「この子たちがこんな風に行動しているがどうなのか」と聞いたり、密接な関係で活動をしている。登下校の見守りも老人会や自治連の方々が熱心に参加している。みんなの目が子どもたちに注がれて穏やかな地域になっていると感じる。

《朝倉議長》

やや抽象的だったかもしれないが、テーマ案は二つの側面がある。

一つは学校教育を支える社会教育であり、先生方に非常に御負担がかかる中どういう風にサポートしていくかということ。

もう一つは、言い方は適切でないかもしれないが、委員のお話にもあったが、子どもを通じて大人がつながっていくということであり、子どもたちがお祭りなどで楽しそうにしているならそういう姿を見に行こうかなというような感じ。子どもたちを通じて大人たちもつながっていく、それが地域の強化になるのかなという観点。

子どものためと大人のための両方を包含できるテーマとして考えている。本年度はこういったテーマで進めていくということで、合意いただけるか。

<委員>

了承

今後、書面で、所属団体や委員自身が携わっている活動、課題、どのようなかたちで社会教育活動を行っていけばよいかということについて事務局から各委員へ照会する。その回答を事務局でとりまとめ、第2回会議の協議につなげていく旨、事務局から報告。

## (10) その他

事務局より、その他資料の紹介

- ①令和6年度社会教育関係課等年間事業計画
- ②社会教育委員活動のためのハンドブックー2022版ー
- ③秦野の教育
- ④令和6年7月の開催行事等

<端山委員>

「秦野の教育」の中に、生涯学習事業として市民教養講座という項目があると思う。十数年前は生涯学習課がふるさと秦野案内人養成講座をやっていて、私はそれに参加して、現在、観光ボランティアを行っている。今も観光ボランティア独自で養成講座を開催しているが、市民協働事業のようなかたちで生涯学習課と連携してできないか。各公民館の依

頼で市内の名所旧跡を案内して歩くことはしていて、チラシや年間プログラムも配架させてもらっていて、これ以上何を望むのかというのはあると思うが、生涯学習課事業という位置づけがあればちょっと人を集めやすいかと思うがどうか。

(生涯学習課長)

同じテーマでの連続講座ではないが、ふるさと秦野案内人養成講座の後継としてはだの生涯学習講座がある。参加者が少なくなっていた中で、令和2年度から幅広くタイムリーな話題を多くの方への学習機会として提供する形にシフトしてきたので、事業を行っていく中での参考意見として承る。はだの生涯学習講座は第3回が昨日の広報で周知されたが、今日時点で70名の定員に達した。1回目から多くの方が興味を持たれているようで、2回目以降、広報で募集記事を出して2日目くらいには定員に達している状況である。昔はお一人の方を認定していく講座という形でやっていたが、今は幅広く学習機会を提供するかたちで実施している。はだの魅力づくり推進課もOMOTANガイドの養成などをやっていると聞いているので、関係各課と連携し、いろいろ情報を集めながら事業展開していきたい。

《朝倉議長》

人気があるようなので、回数や規模を検討してほしい。

## (11) 閉会

《朝倉議長》

その他質問等なければ、これをもって閉会とさせていただきます。

長時間に渡り、ありがとうございました。

以上